広島大学学術情報リポジトリ Hiroshima University Institutional Repository

Title	児童作文にあらわれた「思う」の語にともなう心理的内容とその 形式について
Author(s)	鳴海,周子
Citation	児童の言語生態研究 , 9 : 59 - 72
Issue Date	1978-06-08
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045107
Right	
Relation	



|児童の言語発達の研究

文にあらわれた

思う」の語にともなう 一的内容とその形式について

鳴 海 周 子

ができるからであり、その思い方や意識のむく方向に発達 の文章か、それにしては随分ませているな。」とか、「や の発達段階初期の子供の段階を見当づけられるのである。 な思い方や意識のとめ方ができるようになった大人は、そ の順序を思うからである。だから、発達段階をふんで多様 式等に、その人の思い方や意識を向ける方向を感ずること とができる。これは、文中に用いられている語彙や表現形 っぱりまだ小学生だね。」とか、相当学年を見当づけるこ 上で始めて、発達に応じた教育がなされるのではないだろ ていない。見当に頼るだけでなく、子供の実態を把握した しかし、このような大人の見当の裏付けは、未だなされ 私達大人は、子供の文章を読んだ時に、「これが一年生

には、内臓の意もあるが、ここでは、人間の精神作用のも を通して「こころ」を判断するより他ない。その「こころ」 の面で表われてくる。それ故私達はただ、表現されたもの ことはできないが、その働きを通して、私達の知・情・意 とになるものという意味で使っている。「こころ」は見る は、「こころ」の働きによるものであると思う。「こころ」 違っているように、その精神作用、行為も違う。その違い する」「願う」「希う」「望む」など、「こころ」の働き の表現手段の一つに言葉がある。「思う」「想う」「憶う」 を表わす言葉はたくさんある。しかし、私達は、言葉で 「懐う」「考える」「信ずる」「感じる」「恋しい」「愛 「こころ」を表わそうとする時、多く「~と思う」と使っ 私達人間は誰ひとり同じではない。各々、顔、体格等が *「思」という語は、図であり、脳蓋を意味する「図」と

> じる。③もくろむ。ねがう。希望する。④おしはかる。予 容を分別するために心を動かす。判断する。思慮する。感 在る精神(心)」「心の機能」の意である。すなわち、 子上篇の「心の官は則ち思ふなり」とあるように「脳中に この心は脳にある心(心臓)の原義とはちがい、孟子の告 くしむ。大切にする。⑧過去のことを思いおこす。思い出 ⑥心にかける。憂える。心配する。⑦愛する。慕う。いつ も *①しの顔つきをする。表情をする。②物事の条理・内 す。とある。「思う」は、このように「こころ」の働きの 想する。想像する。予期する。⑤心に定める。決心する。 最も広い意味を含んでいると言える。 「思」という字自体が心の働きを示している。また、意味 「心」とを合わせた字である。字義は、「脳中にある心」

変わりうるもの、変わるものである。この変化とその表現 私達の「こころ」の働きは、一定で不変なものではなく

本研究の目的

発達をみようとしたものである。 とにより、「思う」の語にともなった「こころ」の変化・ 学生の作文中に用いられている「思う」の形式を調べるこ 変化を経て発達するのだろうか。このような疑問から、小 の変化から、「こころ」の働きの変化を知ろうと思った。 への成長の変化である。小学生はどのような「こころ」の 未だ発達途上にある小学生の「こころ」の変化は、大人

方法の変化は一致するだろうと考えられる。そこで、言葉

研究方法

各々発想の異なる文章が載っている。 生活文・日記文・読書感想文・創作文・詩というように、 て作文させるということはしなかった。集めた文集には、 左右されることも考えられるので、本研究では、題を与え 題を与えて発想の仕方を規定すると、それにつれて文体も 文させ、一定条件で発達をみることも可能である。しかし、 資料として、既出の文集を使用した。ある題を与えて作

章で抜き出し、カードを作成した。ここでは、動詞・副詞 を抜き出した。 ・名詞等品詞による区別はせず、「思」のつくものすべて (1)文集中、全学年から、「思」が使われている箇所を文

<動詞例>

年

「ぼくはきたないなあとおもいました。」

三年 △副詞例> 「この本を読んでもらって、思わずないてしまいま 「そんなにつらいこととは思わなかった。」 「ちゃんと話をきこうと思った。」 「でも、思いっきりはしったのでたすかった。」

<名詞例> 「行事の思い出は楽しいことばかりだ。」

> 分類考察していくことにした。 特に使用頻度の高かった動詞で使っているものに限って、 及び使用頻度共に少なかった。 カード化した結果、副詞・名詞で使っているのは、種類 「友達に対する思いやりや、」 (グラフー参照)そこで、

②「思う」の内容から ①「思う」の活用形から 分類していった。

(2動詞で使っているもののカードを次の二つの観点から

の助動詞「た」・補助動詞「て」に接続する時は、連用形 「思いー」は、「思っー」のように促音便化する。 「思えー」・命令形「思えー」と活用する。ただし、過去 「思いー」・終止形「思う」・連体形「思うー」・仮定形 そこで、それぞれの活用形に接続可能な語を接続させて、 ① について 「思う」は五段活用動詞で、未然形「思わー」・連用形

その使用について調べていった。

れます	れた	思われる	산	せませんでした	せません	せなかった	せない	せました	せます	せた	思わせる	なかった	思わない	未然形「思わー」	
ていました	ています	ていた	ている	思って	思った	たくなかった	たくない	思いたい	思い	ませんでした	ません	ました	思います	連用形 「思いー」	

いない	いました	たた	いる			4せんでした	せん	なかった 	ري ان	ま した	
思える	仮定形「思えー」	ので省略した。	られるが、右同様である	しまう。みる。」が考え	※以下「て十いく。やる。	ていて	ていませんでした	ていません	ていなかった	ていない	

右同様なので省略した。 まう。」が考えられるが ※以下一て+いく。くる。し 思われて ので省略した。 られるが、右同様である しまう。みる。」が考え ※以下「て+いく。やる。 思わせて れていません れています れていた れている れていて れていませんでした れていなかった れていない れていました せていて せて せて せて せていませんでした せていません せていなかった せて せて ħ れゅ れ * れな れな が右同様なので省略した。 ※以下「て+いく。くる。 思えている しまう。」が考えられる ていない ていて ていません ています ませんでした ない ました ます ません なかった

ある。 ぼった。分類は、「と」のつくものと、つかないものに分 が働いているのかを調べていった。 のようなことを思っているか、どのようなことに「こころ」 け、「と」のつくものは、その上の文節をさらに次のよう のつくもの 思い出す また、連用形「思いー」に続き、複合語をつくるものが ②はついて 思いかえす 思いこむ 思いうかべる その内容すべてをとらず、最後の一文節及び二文節にし 他動詞「思り」の目的語にあたる「何を」、つまり、ど 思いつく 連用形 たい た 5 だろう十と <助動詞+と> 出した 出せませんでした 出せません 出せなかった 出せない 出しました 出します <u>+</u> + と 思いー」 + 他182 (広辞苑) なあ |<助詞+と> この他の助詞十と のに z _ው な + と + + + と 「と」のつかないもの | <その他> · / 形容詞連用形 / 学年・文集名・学校名・頁数・発行年月日 <タイプ印刷・学校文集> o調査対象 ●ガリ刷り文集 • タイプ 印刷文集 <タイプ印刷・学級文集> 二年 調査結果とその考察 年 |この他の助詞+と||<形容詞+と> <動詞+と> <補助形容詞 <補助動詞+と> ほしい十と ない 十と のびる 思 児童文集第2号 びっぱら5号 ねんりん しおみだい3号 おや子文集 たいよう 出い 出出 13号 11号 <副詞+と> <名詞+と> <その他十と> 8 冊 横浜市立汐見台小 1 校分 18 冊 聖徳学園小 聖徳学園小 武蔵村山市立第一小 122頁 50年3月 136頁 50年3月1日 町田第四小一の五 新宿区立四谷第一小 新宿区立四谷第一小 52頁 48年3月15日 92頁 50年3月24日 町田第四小二の 76頁 47年3月3日 49年3月 48 「と」のつかないもの 三年 <タイプ印刷・研究雑誌> 六年 <ガリ刷り・学校文集> 三年 つばさ <ガリ刷り・学級文集> くさ笛 町田国語教育第4号 机の上で でんしょばと下 でんしょばと上 続花いちもんめ やまみち 詩の指導をめぐって 文集あさかぜ5号 文集あさかぜ4号 文集あさかぜ3号 文集あさかぜ2号 文集あさかぜ創刊号 町田第三小三の三 200頁 48年11月15日 80 頁 108 頁 町田第三小二の四 106 頁 町田第三小三の三 町田第三小三の四 152 頁 町田第三小六の一 168 頁 町田第四小卒業記念 43 頁 町田第四小卒業記念 町田国語の会 町田国語の会 聖徳学園小 49年3月 聖徳学園小 聖徳学園小 23 頁 86頁 47年6月20日 聖徳学園小 聖徳学園小 19 頁 42 年 49年3月23日 84 頁 34 頁 36 頁 22頁 48年12月5日 46 年 48年3月15日 48年11月15日 48年11月28日 48年12月13日 48年11月20日 45年3月28日 49年1月9日 48年9月3日

つばさ 又集つばさ3号 50 年 48年6月2日

文

全校作文

南大谷小

四年 三五六枚 年 〇各学年カード数 一〇三枚 二年 三八二枚 三七四枚

四年 三三一枚 年 一〇二枚 二年 三五六枚 三五六枚 六年一四六二枚 三年 三七四枚 ○上接語調査時のカード数(全カード中、不備なものを除

六年一六八〇枚 四〇七枚

調査結果とその 考察

ことにする。 方法で述べた二つの観点から結果を示し、考察していく

「思う」の活用形についての調査結果

下へ接続しているものも含めて言い切りの形で代表させた。 度数を百分率で示した。ただし、動詞の細分については、 まず、全カードをもとにした動詞・副詞・名詞の使用頻

は学年により異なっている。 三分の二以上を占めている。しかし、この四語の表われ方 少ない。動詞については、どの学年においても「思いまし た」「思います」「思った」「思う」の四語が多く、その 最初の予想通り、副詞・名詞例はその%を見ても非常に

つまり下接語を伴っているものも言い切りの形で代表させ ラフ1では動詞の細分にあたり、下へ接続しているもの、 るようになり、文節が長くなる。以上のことが言える。グ い。③学年が進むに従って、*下接語を伴わせることができ ②各学年とも、終止形以外では連用形のもの「思いー」 表1。表より①学年が進むに従って新出語が増えている。 「思っー」が多く、未然形・仮定形・命令形のものは少な 次に動詞に限り、各学年における新出語を調べてみた。

> 価することができていると言える。 を、接続詞を用いることによって、さらに判断したり、評 伴わさせている。これらの語においては、意識できた思い を見ると、「思う」と「思った」の時、最も多く下接語を たので表われなかった下接語が、表1で表わされた。これ

用頻度数を示した「思っている」「思っていた」「思って てみた。 います」「思っていました」について、焦点を絞って調べ す」「思った」「思う」について、及びこの四語に続く使 れ方が学年によって異なっていた「思いました」「思いま 次に、グラフ1において使用頻度の高く、またその表わ

続相ということになる。 しているのは、単純相、グラフ4の四語に共通なのは、持 な言い方という言い方の違いから二分類、時制の違いから のものに着目してみた。表2。ふつうの言い方、ていねい グラフ4に表わした四語は、使用頻度数百分率からすると、 たものである。この分類でみると、グラフ3の四語に共通 二分類、さらに時制において、その相の違いから二分類し よる発達が似ているので、共に考察していくことにする。 グラフ3に表わした四語の四分の一程度であるが、学年に 含めて言い切りの形で代表させた。グラフ化した段階で、 ここで、使用頻度という分類をはなれて、八語の動詞そ グラフ3・4。グラフ1同様、下に接続しているものも

っています」の現在に属する四語の使用率が高いので現在 ③高学年では、「思う」「思います」「思っている」「思 現在形との比較において使用率が高いので、過去型とした。 寧型とした。②中学年では、「思った」「思っていた」 る四語ということになる。そこで、便宜上名前をつけ、丁 年では、「思いました」「思います」「思っています」 い。つまり表2の分類によると、ていねいな言い方に属す 「思いました」「思っていました」の過去に属する四語が 「思っていました」の四語が群を抜いて、その使用率が高 グラフ3・4及び表2から、次のことが言える。①低学

型とした。

思われる。これに対して、「思った」「思っていた」は、 であるが、現在形が意識されると同時に、今まで優勢だっ という意識に変換したために、その方向をかえ、増えたと 現在形であるが、四年生までは、丁寧な言い方という意識 た過去の意識がうすくなったものだろう。 追って減ってきた。しかし五年生になって、現在形である の方が、現在形という意識よりも高く、そのために学年を る。グラフ5・6。「思います」と「思っています」は、 生への移行で、その頻度数が増えるものと、減るものがあ 方向をかえて滅る。この二つは、ふつうの言い方の過去形 五年で方向をかえて増える。この二つは、丁寧な言い方の 高学年の現在型を裏付けるものとして、四年生から五年

がかわったと言える。 ら、横軸だけの、過去か現在かという一次元の世界に次元 意識されていたが)と時制という縦軸と横軸のある座標か これらのことから、言い方の違い(特に丁寧な言い方が

続助詞・終助詞・及び「だろう」「でしょう」名詞等である。 は、範囲が広く、逆説の接続助詞・原因・理由を表わす接 形との関係で下接語をあげてみた。表3。下接されてる語 はなく、四年生が一番高かった。グラフ7。さらに、活用 きている。この意識は、学年が進むに従って高くなるので **う」と「思った」の時最も多く下接語を伴わせることがで** 次に下接語意識について調べてみた。表1によると、 「思 今まで使用頻度の高かった八語について考察してきたが 「思う」に上接するものについての調査結果

識化したかを見るためであった。表の作成にあたっては、 これは、内容をどのようにとりまとめたか、つまりどう意 わそうとしているのかを見るために、方法で示したように 「思ー」の上接の一文節及び二文節の上の語ものせた。 「思ー」に上接するものの一文節、及び二文節を調べた。 この表より、 どのようなことに意識を向け、そして「思ー」の語で表 「助動詞+と」(以下、このような形のも

多かった。 ぬきと呼ぶことにする。)等の「と」つきのものが非常にのを「と」つき、これ以外「と」のつかないものを「と」

学年による特徴

中生の 特徴

活用形からの結果から丁寧型としたように、丁寧な言い方のあり、「思った」「思う」というふつうの言い方の単純相である。特に、過去・単純相・丁寧な言い方の単純でこのくらいの労を示している語は他学年では見られない。であり、「思った」「思う」というふつうの言い方の単純相のものより労が低い。これらのことから、一年生は、時相のものより労が低い。これらのことから、一年生は、時間で比べると過去、相の違いで比べると単純相、言い方で助で比べると過去、相の違いで比べると単純相、言い方で出のものより労が低い。これらのことから、一年生は、時間で比べると過去、相の違いで比べると単純相、言い方で比べるとしていると過去、相の違いで比べると単純相、言い方の方が、各々強い。

に省略形の短い語のみを使っている。 下接語を伴わせることは少なく、「けど」「ら」のよう

上接語は、全て「と」つきで、その中でも「たい+と」

二年生の特徴

一年生とともに丁寧型としたが、一年生とは、その比率の二倍以上に増えている。「思いました」29・8%、「思いました」が減り、「思います」とほぼ同じくらいになった。この二語に続く「思った」が、一年では7・7%であったが、19語に続く「思った」が、一年では7・7%であったが、19話に続く「思った」が、一年では7・7%であったが、19話に続く「思いましたが、一年生とは、その比率の二倍以上に増えている。

一段階の発展と言える。
「按語の数も増え、「が」「から」「ので」が使われて下接語の数も増え、「が」を除くと、他は「のであるが」のように下に接続可能なものである。一年生では、るが」のように下に接続可能なものである。一年生では、「な」「から」「ので」が使われて下接語の数も増え、「が」「から」「ので」が使われて

三年生の特徴

ー・二年での順位が三年でがらりとかわってしまう。 「思った」22・1%、「思いました」21・6%、「思った」21・10のでは、「思います」15・7%となり、過去時制のものが多い。「思っている。持続相の方もわずかではあるが「思っていた」であっている。持続相の方もわずかではあるが「思っていた」に思っていました」という過去時制のものが多い。「思う」が5・9%から16・0%と、急激に増えたのも見のがせない。「思う」が5・9%から16・0%と、急激に増えたのも見のがせない。 上接語では、「なあ+と」が一位となる。三年生が過去 上接語では、「なあ+と」が一位となる。三年生が過去 上接語では、「なあ+と」が一位となる。三年生が過去 を動かされたこと、感動した場面だけを意識に上ばらせているということである。

四年生の特徴

れている。 過去型としたが、三年とは違いふつうの言い方が多く使わ三年同様、現在形との比較において過去形が多いので、

三・四年になって時制ということに意識が変ってきたもの一・二年では、言い方ということに向いていた意識が、

語が、一・二位となっている。てるものと思う。「思った」「思う」とふつう言い方の二なって、過去の使い方の他に言い方に意識がうつっていっと思うが、三年では、単に過去へ向いてた意識が、四年にと思うが、三年では、単に過去へ向いてた意識が、四年に

を「ゆううつだ」「はじだ」と思っている。一番多く、他人を「なまいきだ」と思ったり、自分の状態「り」「かも」が表われてくる。上接語は、「だ+と」が下接語については、四年生が一番多く使うことができ、

五年生の特徴

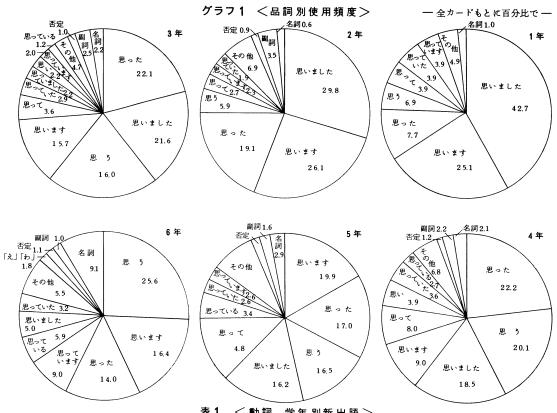
活用形の分類では、現在型としたが、今まで一年から四活用形の分類では、現在型としたが、今まで一年から四年まで学年に従って変化していたものが、その方向をかえて増える。これに対し、過去ということでが、方向をかえて増える。これに対し、過去ということで増え続けた「思った」「思います」「思います」が19・9%で一位になってるが、低学年の丁厚います」が19・9%で一位になってるが、低学年の丁思います」が19・9%で一位になってるが、低学年の丁思います」が19・9%で一位になってるが、低学年の丁思います」が19・9%で一位になってるが、低学年の丁思います」が19・9%で一位になってるが、今まで一年から四上接語で、低・中学年に比べ「と」ぬきが多くなってくる。上接語で、低・中学年に比べ「と」ぬきが多くなってくる。

9%となっている。現在形のものが先行している。43%、続いて「思っています」9%、「思っている」5・「思う」25・6%、「思います」16・4%、「思った」

般に下接語を伴うものが多くなり文節が長くなる。「思っている」「思っていた」でも下接語が見られ、全

「思われる」「思える」等が使われ始める。りがたく」「意地悪く」「うらやましく」などがみられる。りがたく」「意地悪く」「うらやましく」などがみられる。用形で、「くやしく」「なつかしく」「はずかしく」「あ用形で、「くやしく」「なっかしく」「はずかしく」「ありがためる。その中の形容詞連

(青森・弘前第三大成小)

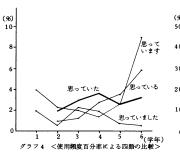


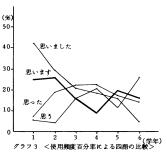
悪いますが、 思い出すと、 思いましたが 思いました。 思いましたが 思いました。 思いましたが 思います。 思いましたが 思います。 としいます。 思います。 としいます。 としい。 としい。 としい。 ときん。 ときん。 ときん。 ときん。 ときん。 ところへ。まる。 ところへ。まる。 ところへ。まる。 ところへ。まる。 ところへ。まる。 思っています。 思っています。 思っています。 思っています。 思っています。 思っていました。 思っていました。 思っています。 思っています。 思っていました。 思っています。 思っていました。 思っています。 思っていました。 思っています。 思っています。 思っていました。 思っています。 思っています。 思っています。 思っていました。 思っていました。 思っていました。 思っていました。 思っていました。 思っています。 思っないます。 思っています。 思っていました。 思っていました。 思っていました。 思っとうりに、 思っとうりに、 思っとうりに、 思っていました。 思っていました。 思っていました。 思っていました。 思っていました。 思っていました。 思っていました。 ことうりました。 ところっとうりとういました。 ところっとうりととういました。 とようととうとととないました。 とようとと		表 1 <動詞	学年 別新 出語 >	
思うが から、 はど、 には、 でしょうが、 ように、 とうりに、 こともあります。 ときも、 人。 の。 よ。 がね。 思ったけれど、 より、 ののに、 よりも、 ことと。 ほったけれど、 より、 ののに、 よりも、 ことと。 ほったけれど、 よりも、 ことと。 ほったけれど、 より、 ののに、 よりも、 ことと。 ほとうりでした。 といつとはした。 とうりでした。 といる とのに、 よりも、 ことと。 時。とうりでした。 といる といますけど、 思りと、 ルからです。 ようにはいかないの。 ときもあり、 ときがあります。 思いつとました。 ときがあります。 思いつきました。 ときがあります。 思っていからの、 のは、 ところへ らしいからだ。 ばくは 思っている。 と、 のは、 ところへ らしいからだ。 ばくは 思っている。 と、 のは、 思っていたら、 思い出しているうもに、 思えない とうりでした。 のは、 思っていた。 が、 思っていた。 が、 思っていた。 のは、 思っていた。 のは、 思っていた。 が、 思っていた。 のは、 思っていた。 のは、 思えない	三年	二年	二年	一 年
うちに、のです。 思えば、思えば、思わないでのが、思わなかった。思わなかった。思いませんでした。 思ってたのに、思いてるもん。 思いませんでした。	思うがいはにでよとこと人のようがたにでようととき。。。ねけよのよこ時といいたり。もも、とここと人のよがたよっなこ時といいたのののようのようののののののようのでのののに、これりにりと。うることには、いいたのののに、は、いいたのののに、は、いいたのののに、は、いいには、、このののに、は、いいには、、このののに、は、いいには、、このののに、は、いいには、、このののに、は、いいには、、いいには、、いいには、、いいには、、いいには、、いいには、、いいには、、いいには、、いいには、、いいには、、いいには、、いいには、は、は、いいには、は、いいには、は、いいには、は、いいには、は、いいには、は、は、いいには、は、いいには、は、いいには、は、いいには、は、は、いいには、は、は、は、	思い出した。 りする。 思い出します。 思い出しました。 思い出して, ほしくなります 思い出される。 思いついた人は,	思思、	思思りなった。 思思 思います。 おらたい から

五年	四年	四年	三年
思いますか。	思っていたが,	思うのは,	思っちゃう
l L.	から,	のだけど,	思ってみてみると,
思うし、	だろう。	だろう。	思ってやったのだろうか。
けど,	思っていたのだ。	こともある。	思い。
とともに,	のと,	ぐらいです。	思いながら,
んです。	にちがいない。	ぞんぶん。	思えるけれど,
んだけど,	思っていましたが,	やつは、	思いません。
まま,	思ってみて,	な。	思っていなかった。
ままなのですから、	思えてくる。	ね。	思ってないようで,
ことがあります。	思えばいい。	思ったくらいだ。	思い出すのです。
時があります。	思っていませんでしたが。	からだ。	思い出したからです。
思ったからには,	思ってもいませんでした。	のが,	思い出せば、
のである。	思い出してしまうのです。	のだ。	思いつかない時は,
でしょう。	思いつく。	だけで,	
りした所は,	思いうかべた。	より,	
りして,	思いしったか。	かというと,	
りしているうちに,		りした。	
とうり,		りもします。	!
思っているけれど,		ことは,	
でしょう。		ことがある。	
ので,		時は,	
のでは,		とたん。	
らしい。		思ってもみて下さい。	
思っていた友達も,		₹°.	
思ってた日が,		いながら,	
思いで,		思っているらしく	
思いもよらないほど。		のかな。	
思えた。		んだよ。	
思えてきます。		かもしれない。	

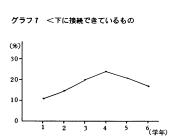
六 年	六 年	六 年	五 年
思っているから。	思ったのを,	思うようになった。	思えるのです。
からです。	のですが,	ようになりました。	思わせられます。
ことを	くらいだが,	ようになってきた。	思わないのに、
ことが,	だけでなく,	ように ~ ない。	思いませんでした。
ことです。	9 ,	ので,	思い出したのである。
模型	りする。	のです。	思い出してみると,
思い出	りもした。	のですが,	いただきたいこと
者	にちがいない。	のである。	思い出し,
友情	からです。	けれど,	思い出しなさい。
思っていたけれど,	ためです。	からです。	思い出されてきた。
より	こともある。	からなのです。	思い出せば,
からです。	こともあるし,	のだ。	
のですが,	こともあった。	のだが,	
だろう。	こともあったような	のだけれど,	
ちしい。	気がします。	だけだ。	
そうですが,	こともありました。	だろうが,	
とうりに,	ことが,	でしょう。	
以上に,	ことがあった。	かもしれません。	
とたん	ことを,	ことも,	
ことを	ことの,	ことがある。	
ことが	ことや,	こともあるが,	
時だった。	ことさえも,	こともあるけれども,	
ころだった。	思っているが,	時がある。	
クラブ	l,	時もあった。	
宿題	<i>ο</i> κ,	ような。	
思っています。	けれども,	気持	
カゞ,	より,	心	
L,	にちがいない。	思ったけれども、	
ので,	時でも,	L	

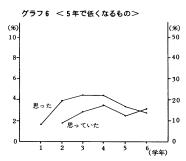
表2 <動詞『思う』の分類>





		ふつうの 言い方	ていねい な言い方
現在	単純相	思う	思います
先任	持続相	思っている	思ってい ます
過去	単純相	思った	思いました
旭云	持続相	思っていた	思っていま した





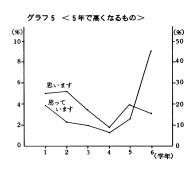


表 3 〈活用形と下接語の関係〉一学年別新出語から

活 学用 年形	思 た	思い った て	思う	思い っる て	思ま いた	思ってい	思います	思い っま てす
1	けど ら	けど ち のに	らしい ん					
2	がらで のしこ ちと	が	とらうき	<u>ک</u>	が		けど	
3	けのよことさり ときり	ので の	がどのよとによう ことによう	けど うち			Δī	
4	だけい くらりかん とたん	から だろう に	ぐらい な ね だろう	んか		が		
5	でしょう		けど まま	けれど でしょう らしい			かよ	
6	けれども ため	けょだらことそこ 以と だらしことそこ 以と たんした	けれど ので だけ	が に と し り に ら と				が し ので

六 年	六 年
思い出すことは, まない出すことは, ある。思い出すこととがある。思い出し、 と, 思い出しししません, ると, 思い出出ししませてす。思い出出されます。思い出出されます。思い出出せれば, まない出せせないが,	思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思思

努力し	発明し	やり直し	知り	観察し	歌い	樂的	# E	入団し		協力し	65	動め	食べ	飲み	すわり	が明し	k d		すすめ	*	勉強し	生活し	くらし	赤耳し	経験し	友連になり	飲み	優勝し	7.5		見	P	つけ	帰り	もらい	かり	育て	5	2	9	Y	うまくなり	おいこし	なかよくし	勝ち	続け	わらわせ	決め	かんばり	言い	強くかり	強き		間 1	遊び	会い	つくり	やり	L	あとつぎになり	つれてき	行き	先生になり	たべさせ	じょうすれなり		ı	へたい+と>	
													c						0	0	0	0	+		0	0	0	0	to	5	5 5	0	0 1	0	0	0	Ē	I		0 0	_	0	0		0	0	0	C	C	,		000		1	0	0	0	000	00	0	0	000	0		0 0		 	1年2年3年4年5年	FF
00	L	0	12				_	_	#]	O くら	見つい	ist	あけてみ	カん	; j	800 72	# / F	5		O 飼ってみ	〇 説明.	挑戦	作ってみ	E i	ii o	しめてみ	とんでみ	してみ	C I		りってみ	研究	やってみて	なってみ	うつしてみ	神	教え			\$ 4 <	ED (はずる	みがき		住み	役に立ち	引き	建て	売り	_	たした		_	1	2				〇 教わり	送り	開き	〇つき合	_	+ *	進み	L III	¥	6年 年	りぞみ
生してもらい	てもらい	て+もらい+たい	いってみ	旅行してみ	^	めんどうみ	ر م	勉強してみ	んでみ	らしてみ	つけてみ	4	2	かんはってみ	2	2	Į,	× × ×	いてみ	, ,	説明してみ	挑戦してみ	À	24	<i>A</i>	<i>\delta</i>	, A			74	<u>ک</u>	こてみ	みて	À		補助動詞て+み+たいー							,			5					H						v												
Ħ	0	+								_					<u> </u>		+	1					İ			0	0	0		I))		0 0	0	0		_	ļ	1	1	1							-			ļ	1	1					_			-						1	-	1
0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	C	0 0			000			0	0	0	C	0	0					1	0		0	0			c		0	0	0	0	0	0	0	0	С	0 0	0 0) (0 0	0 0	0	0	0	0	0	0	0	0	С	C	c	o	0 0	0 0		0	0
と言	î L	だいじ	٨	かわい	残念	だめ	^ *		思い出	1	解きの	1 7	たく	: 1	乗り	R I	7	100	いってき	1 7	残しておき	L±	0.) # (くばっ	してあ	すくっ	助けて	1 8	1	教えて	b b	協力し	かえっ	みてあ	to to	お手つ	3 1	i i	前焦	中よく	すごし	研究し	いかし	考えて	向っていき	件よく	. <	1 2 2	5 k	£ 1	7	勢力して、き	洗んで	やっていき	1 T+	よい班	なってもらい	続けてもらい	聞かせてもらい	知って	よろこ	のこし	かんけ	サイでもらい	P [ć	優楽し	ひろく
5				いそう			+ >		思い出していただき	ーて+いただき+たい ―	解き明かしてやり	て+やり+たいー	スセ	17+2+50	意気終しつし	U - + U	5	•		て+き+たい	おき	しまっておき	てあけ	つばってらず	てあげ	iř	すくってあげ	あげ	3 k	れ、てしてあず	あげ	かわいがってあげ	てあげ	かえってあげ	it*	てあけ	お手つたいしてあけ	マーまいったい!		前銭していき	伸よくやっていき	ていき	研究していき	いかしていき	v at	いき	件よくしていき	7 (35	7 ()	まいって、ま	***************************************		て、き	· è	i de	- て+いき+たい -	にしてもらい	もらい	もらい	てもらい	600	よろとんでもらい	のとしてもちい	かんけってもらし	44.00	000	て、ってもう、	提案してもらい	ひろくしてもらい
0	C	00	0	0	0	0	2	Œ				-	-	-	(-			_		_			c		,	+							+	-	+	+++	+	+		0	0		_			-	-	-	+	+	+	+	+	#	+	1
	-		0	0	0	0	3 4 4 5 5 5 6 5 6 5	¥ ¥	0		0			+	+	+		0	0		0	c		0 (0	0	0	C		5	0	0	0	0	0			1		0	0	0	0	0	0	C	0 0			0	0			0			0	0	C	C	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0	0	0
動機	ž į	無無	道德	平	道	U.	音楽	尘	時	親			1	を	2	x	2	大樓	大切	* L	方	通命		W.	クラブ	例	動物	27	9 2	5	ネズミ	橋	かえる	はじ	犬	i:	ř ž	6	ф ;	植物	先	なまいき	Ľ,	幸福	くみたい	丑枝		R F	fi :	ĸ	番	何	先生	便利	だいじ	ぐに	曲	いや	立統	しあわせ		in it	1 7	t i	献表	不思	7	7	仕事
100	£ 4.24	- J	100	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		ったり	*	必要		9)			1 2 2		3	スポーツ	らくそう	· 疣類	91	١		D			Ź,				9 2	なそう	111		~ ā				र न	で、ドよう者	5			i de	じょうず		たい										じょうぶ	ぐにゃぐにゃ			the first William and White	total									
H	+	ŧ	‡	F									‡	1								-	1		_						0	0	0	С	C			0 0	5	0	0	0	0	0	C	2	(0 0	0 0	0	0	0	0		0		С	C	0		I			2	1	_		0	\Box
00		0 0	o	0	0	0	0	0	0	С		0		0 0	5	0	0	0	0	0	C				0	0	C								L		1	1			_		L	1	<u></u>	1	1	1	1	1	1						L		İ	<u></u>	İ	1	İ	1	1		1	t	╛
できるの	多屋できる	発展するの	E ているの	信じた	ゆれないようにしているの	の+だ	大変なもの	楽しいもの	すてるもの	きらくなもの	彩りとしてもの	まがってもの	共通するもの	文化 はい	乍れたもの	きいていたもの	貴重なもの	ひそんでいるもの	すどいもの	いいもの	きかせたしもの	1	160+01	関係のないこと	当然のこと	むりのないこと	まえておいること	考えてらげること	行動すること	なること	すること	かばうこと	大切だったこと	おもしろいこと	明のこと	春 3 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	文立つこと	いけないこと	歌うこと	やること	つかえること	キリこのこと	すばらしいこと	大切なこと	ーととナカー	53	2 E	すばらしい事	つきもの	勝つため	平気	人の物	チャンス	おもしろそう	頂上	事業	ナメートハ	E	3 3	文章!	终 自	团地 艺	+ 3	落第	道德的	礼儀	悲しみ	Ţ	欲
	+		+	+	F	-	-			+	+	+	+	1	+					0	000		1					+					+			#	1						Ė	ic	+	+		+		-							ļ	ļ	1										E
0		0	5 0		C	İ	0	0	C			0 (0	0	0	0	0	0	С		_	-		0	С	0	0	0	0	0	0	c	0			5	0	0	0	0	0		C	I	#	-	5	0	0	0	0	0	0	0	С	C	C	0 0		0	5	0	0	0	0	0	0	0	0

乗のた と V A た がいなし	形 好 () か ら う ら う も る る べき し あ 詞 十 だ	あったがら あったばったから あったばったから あったばったから かっていり はかったから はなったから はったまとするから はったから かったから かったから	***	発・いか 関東とし 見友 起 ないけない ないけえこう のいん んしんの (を) のいん いいん たいいん たいいん たいいん たけい しだい カール・ボール したいん たいん たけい たいん たいん たいん たいん たいん たいん たいん しょう カール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボ	を で で で で で で で で で で で で で で で で で で で
○ 1年 ○ ○ ○ ○ ○ ○ 2年 3年 ○ ○ 4年 5年 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				000	0000000
おした と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	5 時にとした。 されてくことがっただっただっただっただっただった。 ないたっただっただったたっただった。	大変だっった 機合たかった としていまった 様を していた かってた とっていた た としていった だった だった だった かってん とし しゅう かってん とし しゅう かんしゅん かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんし	理解していった たった たった たった たった たった たった たった たった たった	学 / 博 行 大 果 提 う プラウィック でいった たんたん たんしし した たんしん たんしん たった ちった ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	した を ああまった た なららなかった た かっと た た が かった た た が かった た た がった た だ がった た だ がった た だ がった た がった た がった た がった た がった た がった た がった た がった た かった た がった た がった た がった た がった た がった た がった た がった た がった た かった た かった かった た かった た かった た かった た かった た かった た かった た かった た かった た かった た かった かっ
	0000000			000000	
つ見く行な人しな見何的な かせれけいの ななかななかかいかいかいかいかっかかいかかいかいかいかいかいかいかいかいかいかい	失うっていいか ないかれていかかれていかかのか ないかかれていいか ないいか かまれていいるのか かまれていいるのか ないがく はいかんだ	う 同 し や 嬢 た なった ねむれんに ない くられなし たれなかった たなかがった だ だ だ だ だ だ だ くの だ だ だ だ た た と なん と なん と なん と なん と なん と なん と なん	で洗 不 友 え え 気	なあ工大きへか他色の をある場合とは、 なるもれだだ。 だったいんだだ。 だったいんだだ。 だったいんだだ。 だったいんだだ。 だったいんだだ。 だったいんだだ。 だったいんだだ。 だったいんだだ。 だったいんだだ。 だったいんだだ。	(機) きいしかま変に 不 友 演 日 人 なかった なだだ だだだ だだ だ だ と く く しゅう せい さい かい さい かい せい かった し と く しゅう かい かい かい かい せい かった し と く と しゅう かい かい かい かい かい と と く と しゅう かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい
00000	000	0000000000		00000	O O O O O 1年 O O O O O O O O 3年 O O O O O O O 5年 O O O O O O O O O O O O O O O O O O O
すった かっと なったい いった なった なった なった なった なった なった なった なった なった な	能しあ行材か 作遊覧いた か 作遊覧 しあけき ってて ないに ないがけ ない いがけ ない い で たいい い な たいい い 、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		「か高額 大こうさば b カいもまかいもしいい しいいい いいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	えおすい はきたのした あったれているのに いいい たたし しちらって にいいい いたし ちちらって にいいい たちらって にいい たちらって にいい たちら	先 を とし 食 こ 行 と な 上 だ い な な か が か が か か か か か か か か か か か か か か
	00000				
のはよう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならう。 はならら。 はならら。 はならら。 はならない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 は	入い、か出手標ろそう。 かんえそもおううかそう。 うかそう。		制要作からう 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	大変だろう 大変にあった 大変にあった 大変にあった 大変にあった 大変にあった 大変にあった 大変にあった 大変にあった 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変だろう 大変にあった	を だいった かかり たいかった からし こくて ない かり たいかった かり し こくて ない とし は は いりな は ない かり たいかった かった とし ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
00000			OOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOOO	000	

言えた	見え	まにあわ	悪かったかもしれ	みつから	みかけによら	はいれ	どうにもなら	かまわ	つけたのかもしれ	言之	起き	忘れ	なれ	高くなるかもしれ	ばかにするかもしれ	使わ	! 動 け	楽しいかもしわ	e d	よろこらかもしれ	根か	5 20 20 20) i	第一	Rt 7	j	いっているのかもしれ	+	C 2	b	0 1	一動河ナな、!	^ない+と>	4 - 1 0 2 2 2	かんはっていこう	者してそろう	なかよくしておこう	忘れないでおこう	してゆこう	見せてやろう	なおしてもらおう	書いていこう	とっておこう	制置していこう	いれてそろう	いれてもらおう	聞いていこう	していこう	表えてもられる	女はいつ(6)	博力助司 5	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	0 2 3	000	しっかりやろう	あすかろう	受けつごう	持とう	ねらおう	開こう	ねむろう	たたこう	立とう
00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	С	C	C	C	C	0 0	0 0					0	0	0	1	0		1 年 2 年 3 年 4 年 6 年	1	0 0	0 0	000	C	0	0	0	0	0	+-	C	C	C	0 0		I		0 0	0 0	0 0	0 0	0	0	0	0	0	0	0	0
- 名詞+だろう+と-	なんでできなか	とるの	なにをしているの	けんかしてしまったの	こわすの	なぜゆえないん	どうしたん	なんで上がらないん	なぜ生きているん	なんでこんなにちっちゃいん	なんて不幸な犬なん	するの	わかったん	なにをするん		へだろう+と>	生ない	上手にならなければならない	なおさなければならない	つけなくちゃいけない	はおだといけない	決めてはいけない	気をつけかければからかい	かんはらかくてけいけない	がしばった、これ、十 に、	悪子なず、ナな、	しては、ナない	ねむくてすいナない	そうしなければならない	考えなければならない	競争してはいけない	なおきなければならない	勉強しなければならない	やうなすればならない	感謝したけずけからかし	だけではいけない	笑ったりしちゃいけない	にけなければならない	形容詞	とわく	楽しく	はずかしく	おもしろく	14	42L<	一形通証選用形+ないー	無理	- 名詞+ない -	じょうたんじゃ	くらししか	一旦部サカレー	`	257.27	考りたく	もらえ	ばけられ	- 助動詞+ない -	してい	かわってい	―補助動詞+ない ―	いけ	あわ	v
0	• • •	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	3 4 5	年年年年年	C		0) C	0 0				000	000	000	0	0 0	0	0 0	0 0	0	0				C		0	0	0	0	C			C		C		D)	0			I			0	0			_	0
くらべてみ	買っていってあげ	つれていってあけ	買ってあげ	作ってあげ	読んであげ	―補助動詞+よう ―	調べ	起き	集め	続け	つけ	やめ	少なくし	実行し		**	2 8	行かせ	1	計画し	見報し	表力	₩ J	9 2	乗りかえ	入れ	食べ	練習し	変え	あげ	勉強し	ع	あきらめ	L	へよう+と>	4.40	お付えているから	- 鬼部+たろき+と -	か可してつうトニー	そんなに仕ない	なれる	あえない	つかれた	一旦無計せかえるせる	おかってくれる	011111111111111111111111111111111111111	でかれている	矢っている	11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	思ってしまう	補助動詞+だろう+と	着く	医者になる	前館する	心記する		多いこと	楽しいこと	大丈夫	なんていやな学校	たいへん	だれ	何
000	0 0	C	C		0		0	0	0	0	0	C	C	oc					0 0	+	000	I	0 0	0 (0	0	0		0		0	0	0		0	1 年 2 年 3 年 4 年 5 年		0 0		C	0 0		0 0)		0 0			0 0	5		0	0	0	0 (C	oc	000	0	0	0	0
ついてきてくれるか	おりるのカ	題かったか	とうしようか	だったか	生まれないか	あったのか	たったのか	頂上か	~じゃないか	なれていないのか		つますしたのカ	すべれるか	うけられるカ	1 8 2	550 x 2 x 2 x 2	すべれるか	30 to 10 to	こりくてくるしこをないか	0 1	2	なれているか	本 物) ,	できるか	ļ	だいじょうぶなのか	どうするのか	わからないのか	人っているのか	にせ物か	やらないのか	ならないか	行ったか	かり	なおるのか	た さ	がどいり	可 マクカ	`\$4\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	するのカ	からかいたか	くせなのか	中をのか	1	やってくてもりか	をくろっこか	すし	たいの オ	is a	あがっているか	どうしてか	^ な + と V		なってあげ	出てみ、	せんて、	善してみ	捕いてみ		見てみ	してあげ	調べてみ	うけてみ
00	0 0) C	oc	o	0	0		C	C					0 0	0 0		0 (0		0 0	1	0	0	0	0	0 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 0		0 0		0 0		0 0						0	0		1 4 2 4 3 4 4 4 5 4	F F F	0	0 (000		0 0		000	Ι	c	00
行きたい	主ませたい	作ってみたい	やってみたい	プリカレ	したいせかせるし		1C < 1.	おもしろい	うるさい	かおしし	早い	まるし	2 3 1	なかし、	*	くき、	ずるい	おかしい	むずかしい		おいしい		- 形容詞+な+と -	考えていらっしゃるんだ	無理だ	おてんばだ	学校だ	愛読したんだ	わかれそうだ	先生だ	曲だ	なったんだ	変だ	クラスだ	人だ	なれそうだ	ことだ	遊べるようでなるためだったんだ	やったんだ	頂上だりが	大きいんだ	あるんだ ナノナ	重くなったんだ	1	いっしょうけんめいなんだ	まいったんだ	かんたんだ	あさやけだ	大変だ	わすれちゃったんだ	人だ	悪いんだ	しているのだ	できるんだ	だめだ	不思議だ	* X	かったうだ	みたいぜ	ハヤビー	これくないのか	まくまくしゃしろのま	なのか
0	0 0	0 0	0 0	0 0					1				0 0		0	0	0	0	0			00000		0	0	0	0								0	0		0	0	0 0	0 0		0 0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0 0		o a			000

5 1 6	↑ 注射 (5	の c c で かけい たかわか かわかた な は し い だろう も と と と と と と と と と と と と と と と と と と	つ生生 東寺が男 つかまかった ただり ももではみないいいい しゅってスカストにった たった たった たった たっと たった たっと とし しゅっと たいいまたいい またいいまたい とし
4	年 年 000 年 年	0 0		
株ってしまう。 「さないのではない」 「とんながなトと」 「とんながならのではない。 「とんないかさかっているの。 「となることをされるの。 「なってしまうの。	悪いのした 女 編 ゆめめったり 大 か か りした いったり した いったり ちょない い こうう う う う う う う う う う う う う う う う か か り したい い こう う う う う う う う う う う う う う う う う う	すれたのではない。 ちんしゃない からめらかしゃない できるんじゃない できるんじゃない できるんじゃない はない ことではない ない ことではない マル サッチュー マル サッチュー マー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	い 透達 皮 広	かしてあった。 は a b c c c c c c c c c c c c c c c c c c
0000	0000000000		0000000000	
たなによりとして 「 と 人と し	たり、	にくもちゃんるはい	た 年表 あ や か っ で か る た さればようれ + と し 勘 っ で や る た さればようれ + と で し か し の と も うれ は ようれ すぐつく と か っ で か た た し か た と し っ で か た	が勝った。 (
0 0	0 0 0	0 0 0	00000	0000
空集する る なく なち る る る る る る る る	立 発 多 機 な も で ぜ か か る る で な え る る た く す ち ち た く す ぎ ち ち た く す ぎ ち ち た く す ぎ ち ち か か る る か た る ち た く す ぎ ち ち か か る る か た ち ち ち か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か あ る か か か あ る か か か あ る か か か あ る か か か あ る か か か か	いとすやだはとはつかかる 生すっさ まりある ままめまっ まりがま ちょうちょう まりがま ちょうしゅう まりがく ちょうしゅう しゅうしゅう な 音 は は な で 音 は は な か れ 数 触 に す と も な あ あ お れ る お か れ る お お 調 に す と く よ な よ か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か	中	
000000000	00000	000000	000001ft 00000034f 0000004ft 554000006ft	0 0 0 0
さて しい + と -	心配は たならび はずは いるわけは では しんしんことは かんたることに は でけでは は ばば は は ない ない では は ばば は ない かん たんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん なんり は ば は が は は は は は は は は は は は は は は は は	ア 無 あ時 しお と 大 編 ん かってしまと	あ 集出 な行の 五愛 こ 楽鬼 連 いる の	以 だ と さんな を と くんな る と くんでし と さんくんでし と かって で や あ る か こ ていてい い る ち き くんで も な る と で で か る ち と さん で し と さん で し と で で や な る と で い め ま く な る と で い る ち る ち と と く と らん な る ち らん る ち らん る ち らん る ち らん る ち らん る ち らん る ち らん る ち らん る ち らん る ち らん る ち らん る ち らん る らん ち らん る らん ち らん ち
0000000	0000000	00 14 24 0000 34 44 54	0000000	0000

まさか + と >	八枚	無男生	もませ	第 第 列 不 反	しろじろ	のとっていること	そんなこと	さんおんもおん	2	5	から、そう	いろいろ	まだまだ	チャンス	けち	しょくよつ	****	た 受 を も	典足すること	くいしんぎ	とんぼのふん	<名詞+と>	くらせる	つくれる	世える		うまくいける	やれる	生まれる	すべれる	死ぬまい	なれる	旅がせてもらえる	読める	わたれる	およげる	かえれる	行ける	あてられる	1	へ助動詞 + と >	人はいないで	1480	長生きして	考えて	時間になって	あって	しっかりがんばって	きちんとやって	意見を出して	クラブ化して	こ人なことのならないようれなって	多事して	名をおして	学文で、で	えして	61.	勢力して	遊にして	子供になって	情れて	しずかになって	休み時間みたいにして	がんばって	親切になって	生きて	整理をして	
0	0	000	0 (0	0	0	0	C				0	0		0	c		000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	o	0	3	年 年 年 年		000	1	0	0	0	0	0	0	0				000		0	0	0		0	0	0	0	0	C		1211111
咲けばいい	いてもいい	食べた方がいい	かっていば、、	村人とれいい	3 2 6 6 6		はなばなしい	おそろしい	ガリオサル	E PP	うまい	多い	生きにくい	正しい	ずるい	長し	t a	3 1	なつきやすい	かとい	うれしい	すばらしい	悪い	力きい	ひたい	1000	まずかし、	おとなしい	大きらい	ぼろい	かなしい	強い	うらやましい	わるい	えらい	とわい	1.	おいしい	do do	おもしろい	ほしい	たのしい	- A	6-11	ki :	おしい	すどい	おかしい	くやしい	まずい	もったいない	t		1	<形容詞+と>	2	まちまち	ちきしょう	っくさく	< ₹		しめた	しまった	\$ (ありがとう	<その他+と>	:	1
0 0	0	0 0	0				c				0	0	0	0	0	c			0	0	0	000	0	C		I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	L	0	-		0 0 0		c			0 10	0	0	0 0	0	0		c			1 年 2 年 3 年 4 年 5 年	E.			0	0	0	0	0000	0	0		C	
カニがよい		書いてきたのだからいい	一札ではくてもよ、	カ人がたってもしし	木がしし	けばよい	た人でもしし	かたえられたらしし	-	も主が、、、	ぼくはいい	やればいい	幸福な方がいい	勢力していけばいい	いたらいい	すればよし	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	i	つれていったちいい	作ったらいい	やったらいい	とってもよい	先生だといい	キャばりいい	育の見かしし	前の方が、、	やっていい	きめた方がいい	これがいい	ならなくともいい	しのようになればよい	仕事がいい	気をつけた方がよい	とりかえた方がいい	先生のほうがいい	考えたほうがいい	飲めたらいい	わかってあけたらいい	てきればいい	しなともいい	買ってもらったらいい	おこらかしブカしし	おこうは、方が、、	やればいい	もっとあるといい	入れたらよい	かたづくならいい	整理したらよい	かわればいい	食べてもいい	お兄さんちしくていい	١.	10人では、、	* 1500°	一位でいい	となくていい	これでいい	やった方がいい	つくったらいい	できればいい	ねなければいい	できたらいい	i,	もういい	あったらいい	が行しし	なない。	L
00	0	00	0	0 (0	0 0	0 (0	0 0			0	0	0	0	0			5	0	0	0	0	0	C			0	0	0	0	0	O	O	0	0	C	0	C		0 0				5 0	0	0	0	0	o			oc	000				0 1	0	0	0	0	0	0	0 0 0		С	c		
いいことを	のことを	けんじゃかんのこと	- E-	「と」ぬき<助詞>		- #	11. 2	500	6	すぐ	生す	空	**************************************	今日	その時	三	それで	行くたび	はっきり	つくづく	あらためて	ع.	4	たって	1000	` o	遊びらしく	1 <	なかなか	はらがへりすぎて	3	4:2	とき	ときどき	もきしょう	おたのしみ	なかなか	したした		U / 14		2 / T O. ft	「」はなくその他>	うらやましく	意地悪く	気味悪く	よく	ありがたく	はずかしく	なっかしく	*	6 , 1	(P)	264	つまらなく	おそろしく	たのもしく	楽しく	むつかしく	強く	むずかしく	なつかしく	うれしく	3	「と」なき<形容同連用形>	作がして	中がおいい	
000		0		1 4 4 4 4 5 4 6 4	F F		0 0	0	0	0	0	0	C	C		0 0	0	0		0	0	c		1	0 0	O.	0	0	0	c	C	1	0	c) C		1				0		0	0	0	0	0	C					0		0	0	0	0	0 0 0	0	C	000	1 2 3 4	年年年年年			
正次は	なりたいとは	プー吉は	まわれるとは	よくかけたとは	保けんじょは	大きいとは	負するとは	₹ < 1	숙 ti	わたしは	1	経験を	港も大味を	23.03.23	5 5 5 5	日のことを	人たちのことを	こんなことを	ころを	ころのことを	言われたのを	マニのことも	フタリナンとオ	人学・コニュビ	₹ b	相手を	人を	あの時のことを	このことを	そんたことを	7000	マンプンス	することを	強しいことを	E ## # # 1 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	言つれたことを	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	小さいときのことを	あったととも	やったことを	ちゅうしゃのことを	選手を	というようなことのことを	強さを	勇者を	つかまえたことを	親のことも	せかる	1 2 1 2 1 2 1 2 1	キリンピールを	世界を	昭和時代のことを	何を	キャンプファイヤーを	その話を	教えてあげたのを	本のことを	お母さんを	あるのを	お母さんのことを	イエスさまのことを	その他のことも	まの石のことを	労生を	EEX	へんないとき	きのうのことを	すいかを
0	0 0	00	0	0	0	0		00000	0	00000					0	0								0									0	0 (0	0	0	0	0	0	0	0	0		C			I		0	0	0	0	0	0	0	0	C		0 0	0 0	000			0 (0	0	0

ŀ	えらいおぼうさんだなとも		126	書かれているように	のように	この間のことのように	5 1	0 2	5 1	かいったようて		į.	5	ないたように	にているように	一番いいように	来たように	1	100	173	1000	大種の · ** ※	7年間が、から、1	1000	: 1 : 7	ようて	ो	死ぬように	附いたように	ように	ぎに	そみたいに	お手伝さんみたいに	ゆめに	高い存在に	ÜK	前に	最初に	きれいに	気味わるそうに	はじめに	通るたびに	ぎもんに	LAK	5 LC	- 1	そういうふうに	ぎに	りに	かわいそうに	残念に		この頃は	先生だとは	1.5	3 E C & & & & & & & & & & & & & & & & & &		3	しのもの	でし	今では		恥かしくないようにとは	多いとは	١٤	10	4
ŀ	+	\pm	\pm	t			1	1	+	1	İ	1	1	+				L	t	t	t	+	\pm	ł	1	+	\pm	1	+		1	1	1	+	+	-	+	+	-	_	-	H	-	ŀ	+	+	+	_	0	o	0	H	H	ŀ	1	-	+	1	+	+	+	-	-	-	F	F	F
L	\perp	_	2	L			1	1		1										Ι	Ι	Ι		Ι	Τ		T	T	Т	T			T	٦				T						1	T	1	0	0					Г		1	Т	T	1	7	1	7	1	7	7	Т	T	t
L	k	2	\perp	1			1	1	\perp				1	I			L		Γ	Ι	Γ	Γ	Γ	Γ	Ι	I	I	I	T	1	1		T	1	T	T	1		\neg			,	•		(5	1			0	0	Τ	T				1	+	7	+	1	1	7	7	_	T	T
		1											Ι	I					Γ	Γ	Γ	Γ	Τ	Т	T	1	0	5	5	1		T	T	7	T	1	1	-				0	0	C	5	7	1	0			0	1	T	T	+	:	†	†	1	+	+	1	7	\exists	Т	o	ıτς
	\perp	I		0	0	0	οĪ	0	0	0	5	5	5	οĪ	o	0	0	0	C	C	O	O	0	O		5	T	T	T	T	0	0	o	o	o	न	o	히	o	0	0			T	+	T	1	o			o	T	0	to	lo	o c	οlo	5 0	٥t٥	ਰੀ	5	o	ਰੀ	ਰੀ			t

班長になるなんて はいるなんて なんて なんて

いるようにさる

\simeq	_	_	_	_	_			1	1		1_	_	_		\perp			_	L.	Ь.	1			t	ľ	ľ	10			
1	┙		С	0	0	0	O	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			Γ	Г	0	
_																									-					
			はずかしいとばかり	ーばかり	心から	ms	さめたのか	何度か	しめることなんか	何か	m	きいひや	本気で	頭の中で	心の中で	7.	よいなあって	いいなって	うったかって	できないなって	たいへんだなあって	-r-	当時のことが	黒板が	清里のことが	うさぎとぶたが	いろいろなことが	夕べのことが	形が	
Į	I	I																											П	İ
1	4	\perp	L	L	L	L		L	L	0	L	Ц	L	L				L	0	0	0									I
1	1	1	L	L	0	L		L	0				L	L	0															Ī
1	1	\perp	L	L							L			0	0			0									Г			Ī
1	\perp			L	L	L	L	L					0														0	0	0	
1		1	0		i		0	0				0		0	0		0						0	0	0	0				Ī

児童の言語生態研究趣意

ふざけているのかなとも

習を専らとする風潮さえ生んで参りました。 ・ は活発さを加えたかに見えますが、国語教育は技能的となり、 は活発さを加えたかに見えますが、国語教育は技能的となり、 は活発さを加えたかに見えますが、国語教育の実践と研究 は活発さを加えたかに見えますが、国語教育の実践と研究 は活発さを加えたかに見えますが、国語教育の実践と研究 は活発さを加えたかに見えますが、国語教育の実践と研究 は活発さを加えたかに見えますが、国語教育の実践と研究 は活発さを加えたかに見えますが、国語教育の実践と研究は、 日日ゆるがせにできない永遠の

一の ― 幼稚園のことも

生きていたということも

思えば、子どもの言語生態とも言うべき基礎資料を得るこて、子どもの側からの発言を世に問いたいと思います。の発達とともにある子どものことばの実態を、調査、研究しの発達とともにある子どものことばの実態を、調査、研究しかれわれは成育しつつある子どもの言語生態を、正確に見

あります。

及び実践の確立に資すべき、最初の条件であったと思うので及び実践の確立に資すべき、最初の条件であったと思うのでた、われわれ現場人が、それらの基礎資料をどれほど整えてた、われわれ現場人が、それらの基礎資料をどれほど整えてた、われわれ現場人が、それらの基礎資料をどれほど整えてた。おります。

して、広く斯界に頒布することにいたしました。 小冊子といえども、発達途上における子どもの心とことばと 小冊子といえども、発達途上における子どもの心とことばと かれわれは相互に連絡協力して、この調査、研究を進め、

昭和四十三年四月

児童の言語生態研究 同人 一

同

玉川大学教授 上 原 輝 男

玉川大学教授

日名子

太

郎

入会の御案内と投稿規定

会員となれます。 幼・小の先生方ならどなたでも正人が現場でつくる雑誌ですから、

編集部にお任せ願います。 中。ただし、子ども中心のもので あるのが本誌の特徴です。採否は あるのが本はの特徴です。採否は

原稿掲載は正会員に限ります。、ののでのでである。、本誌購読者の方々(一年分まとめ)を会友になって頂きますが、というでは、「一年分まとます。

入会希望の方は

- ② ①第 注折 名
- ③数海住所
- (5) 本年度使用の国語教科書使

4

担当学

年

(千円)を添えてお申し込み下さを必ずお書き下さり、本年度会費

(事務局)